

# 不透明な環境で底堅さをみせる米配当貴族指数

シニア・ストラテジスト 石黒英之



## ポイント① 米景気後退局面で強さをみせる傾向

インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ継続姿勢や、それに伴う米国の景気後退懸念が意識される中、S&P500配当貴族指数は底堅さをみせています。同指数はS&P500種株価指数構成銘柄の中で、25年以上連続で増配を行なっている企業で構成（注）されており、世界的にもよく知られている指数の一つです。

連続増配企業で構成されるS&P500配当貴族指数は米景気後退局面で強さを発揮する傾向があります。同指数とS&P500種株価指数の相対指数をみると、新型コロナ感染拡大で急な景気後退に陥った2020年を除き、1990年以降の3回の景気後退局面前後で、S&P500種株価指数を大きく上回るパフォーマンスとなっています（右上図）。

## ポイント② 長期視点でも投資妙味あり

FRBによるこれまでの大幅利上げの累積効果が時間差を伴って顕在化し、今後米国が景気後退に陥るとの懸念が市場では強まっており、当面はこうした局面に強いS&P500配当貴族指数が優位な展開が続きそうです（右上図）。

また長期的な観点からみても、同指数には投資妙味があるといえます。とりわけ注目したいのが配当効果です。配当を除いた同指数の動きをみると、89年12月末の「100」に対し、直近では「1,621」となっている半面、配当（課税前）を考慮すると、同「3,988」となっています（右下図）。これらの差がすなわち配当の複利効果といえ、連続増配企業で構成される同指数の強みがよく表れています。不確実性が高い中、長期的な視点でこうしたクオリティの高い株式に投資するのも一手です。

## S&P500配当貴族指数/S&P500の相対指数



## 主要株価指数の推移（米ドルベース）



（注）S&P500配当貴族指数は構成銘柄数が40を下回った場合には、20年以上連続で増配している銘柄の中から補充されます。

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。